

# 僕らがここに立つ理由

## 山上拓也 3等陸曹の場合

自衛隊関連で「えげつない」訓練の画像を見かけたら、それは大抵「レンジャー訓練」のものである。高所から降り、山野を駆け、寝食を削り、限界というラインの、その過か先を求められるのがレンジャーである。

にわかには信じがたい話であろうが、この訓練、全て「志願制」であるのだ。むしろ部隊内で予選的なものが行われ、参加したくても参加できない者がいるほどである。

彼らは、そこがそういう場所だと知っているながら、自らの意思でその地に立つ。厳しい訓練を乗り越え、彼らが手にできるのは富か? 异進か?

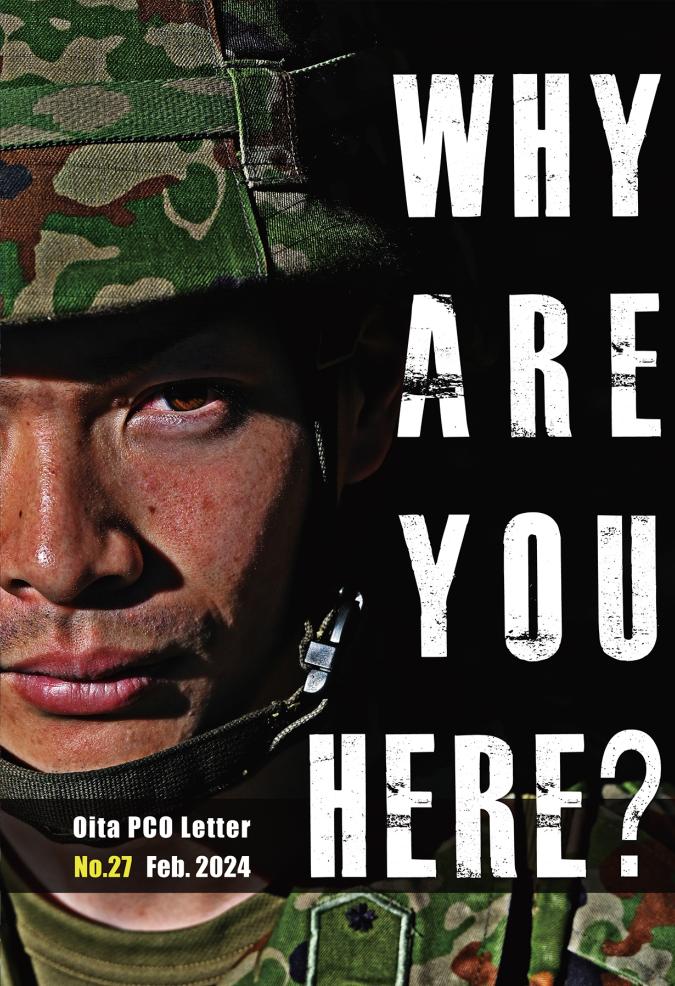
その、いずれも彼らは手にしない。

尋常とはいえない日々を乗り越え、彼らが手にすることは、その訓練を終えたという証

「レンジャー徽章」を、その身につけられる資格だけなのである。

実利のある何かを手に出来るわけではない。それにもかかわらず、彼らはそこに立つことを自ら選んだ。

はたして、いったい何が彼らをそこに立たせるのか。その訓練を乗り越えた時、彼らに見えるのは、どんな景色なのか。



Oita PCO Letter  
No.27 Feb. 2024



陸・海・空 自衛官募集  
大分地本

私が勤務している別府駐屯地は、十文字原や日出山といった演習場に近いので、移動が苦になりません。演習が終われば温泉地として名高い別府の温泉に、すぐに入れるので疲労回復もバッチリです。私の中では綺麗に演習のサイクルが完成しています。別府駐屯地、サイコーです!!

入隊前はレンジャーのことなんて全く知りませんでした。初めてレンジャー訓練を見たのは入隊1年目の時です。レンジャー訓練に行くための予選的なものとして、「体力素養」というものがあるのですが、これは腕立て、腹筋、懸垂、跳躍(飛行)場で垂直跳び、300mダッシュ、ハイポート(小銃を持って走る)といった種目で基準があります。それを全クリアして、初めて「レンジャー訓練」への参加が認められるんです。この種目をクリアするだけでも、そこそこ厳しいとは思うんですが、そこをクリアしても、まだスタートラインに立てるだけです(笑)。

その体力素養をクリアして選抜された先輩たちが、休日も含めて毎日のように厳しい訓練を行っていました。それでも、訓練が開始された時は20人以上いたと思うんですが、3ヶ月後の訓練終了時に残っていたのは4名だけでした。その光景を見ていたその時は、「自分とは無縁な世界だ」と思っていました。

その無縁なはずだった世界に踏み込んだのは入隊して3年目でした。3年目といえれば、そろそろ陸曹になる同期も出てくるのですが、私の中で陸曹になりたいと思える明確な理由がなく、そもそも自衛官を続けるべきなのかどうかで迷っていました。そもそもやつて迷っている時に頭に浮かんだのが、かつて見たレンジャー訓練



山上拓也  
3等陸曹  
連隊本部人事班  
(別府駐屯地)



\*記載している情報は全て取材時のものです。

その様な訓練の日々を経て、3ヶ月後に「帰還式」の日を迎える事ができました。その式で、「レンジャー訓練」をやり遂げた証として「レンジャー徽章」を貰えるんです。それを手にした時には、もちろん解放感や達成感もありましたが、

その様な訓練の日々を経て、3ヶ月後に「帰還式」の日を迎える事ができました。その式で、「レンジャー訓練」をやり遂げた証として「レンジャー徽章」を貰えるんです。それを手にした時には、もちろん解放感や達成感もありましたが、

でした。厳しい基準をクリアしたはずの先輩たちでさえ、最終的には4名しか残れなかつた訓練。もし、その高い山を超える事ができたなら、私の中に自衛官として向いている何かがあるという事を確認できるんじゃないかなと思いました。レンジャー

訓練にも挑戦してみてください。

本当に厳しいんで(笑)。皆さん

挑戦、お待ちしています!